

第38回定期全国大会開催



挨拶に立った大杉委員長

7月30日（土）、第38回定期全国大会が静岡市内で開催され、今後の活動方針を満場一致で可決しました。

大会を代表して挨拶に立った大杉委員長は、「東京タ構内で死亡労災が起きた。今一度、安全最優先の取り組みをお願いしたい。昨年より組織拡大が続いており、改めて関係者には感謝申し上げます。政策課題では、青函共用走行問題・アボルール改定等、山積しているがJR連合と共に解決に向け取り組んでいく」と力強く発せられ、来賓の挨拶では、榛葉賀津也参議員・松岡交運共済理事長・JR連合政所局長の各々より、激励のお言葉を頂戴しました。

執行部より活動方針（案）を提起し、質疑では「コンテナ偏積・輸送障害対策・コロナ対策・組織課題・政治問題・青函共用走行問題・賃上げ要求」等、多くの発言があり、集約答弁に立った辻村書記長は「組織拡大が続いていることに改めて感謝申し上げます。東京タ構内で死亡労災があったが、自分の身近な場所で重大労災が起きていることを認識し、安全最優先の業務遂行をお願いしたい。多くの質疑があり、様々な課題克服に向け、組合員の先頭に立って取り組んでいくことをお約束する。特に賃上げに関しては、労働条件の最たるものであり、組合員の生活に直結することから、人事制度改善・2022年末手当交渉・2023春闘を鋭意に取り組んでいく」と訴えました。



榛葉賀津也議員



交運共済松岡理事長



JR連合政所局長



青島議長（東海）